

修士論文

紹介状を持たない患者に対する選定療養費徴収義務化が外来患者の受診行動に与えた影響

五十嵐 康佑

東京大学大学院経済学研究科経済専攻経済学コース

目次

概要	v
第 1 章 序論	1
1.1 研究の背景、問題意識	1
1.2 研究目的、リサーチクエスチョン	1
1.3 研究意義、本稿の貢献	1
第 2 章 制度背景と先行研究	2
2.1 制度の経緯	2
2.2 関連制度との比較	2
2.3 国内外の先行研究レビュー	2
第 3 章 制度改定の概要	3
3.1 制度制定時	3
3.2 制度改定	3
3.3 2022 年 10 月の制度改定	3
3.4 政策目的と理論的期待効果	3
第 4 章 データと変数定義	4
4.1 データ概要	4
4.2 主要変数	4
4.3 記述統計・分布	4
第 5 章 分析方法	5
5.1 定式化	5
5.2 パラレルトレンドチェックと検証方法	5
5.3 推定方法	5
第 6 章 分析結果	6
6.1 DID	6
6.2 イベントスタディ	6
6.3 異質性分析	6

第7章 考察	7
7.1 結果の解釈	7
7.2 外国との比較	7
7.3 政策的含意	7
7.4 限界と今後の課題	7
第8章 結論	8
8.1 要約	8
8.2 主な結果	8
付録A 表・図の補足	9
付録B ロバストネスチェック	10
付録C 使用データ・コード一覧	11
参考文献	12

図目次

表目次

概要

ここに日本語の概要を書く。研究の背景、目的、方法、主要な結果、結論を簡潔にまとめる。

第1章

序論

本章では、研究の背景、問題意識、目的、貢献などを述べる。

1.1 研究の背景、問題意識

ここに研究の背景、制度・政策上の問題意識、実務的な課題などを書く。

1.2 研究目的、リサーチクエスチョン

本研究の目的と、具体的なリサーチクエスチョン（RQ）を明示する。例えば、

- RQ1: ～に対して、制度改定はどのような影響を与えたか。
- RQ2: その効果はどのような異質性を持つか。

のように列挙してもよい。

1.3 研究意義、本稿の貢献

既存研究・政策実務の中での位置づけ、本稿の学術的・実務的貢献を整理する。

第2章

制度背景と先行研究

本章では、本研究の対象となる制度の背景と、関連する先行研究を整理する。

2.1 制度の経緯

制度導入の歴史的経緯、導入前の問題状況、検討過程などを記述する。

2.2 関連制度との比較

対象制度と類似・関連する他の制度との比較を行い、本研究対象の制度の特徴を明確にする。

2.3 国内外の先行研究レビュー

国内外の関連研究を整理し、本研究との関係（ギャップ・位置づけ）を示す。

第3章

制度改定の概要

本章では、制度制定から2022年10月の改定に至るまでの制度内容を整理する。

3.1 制度制定時

制度制定時点での制度内容、対象、負担構造などを記述する。

3.2 制度改定

これまでの制度改定（2022年10月以前）の内容とその背景を整理する。

3.3 2022年10月の制度改定

2022年10月の制度改定の具体的な内容（対象拡大、負担額の変更など）を詳細に記述する。

3.4 政策目的と理論的期待効果

制度導入・改定の政策目的と、理論的に期待される行動変容・経済的效果を整理する。

第4章

データと変数定義

本章では、本研究で用いるデータセットと主要変数の定義を説明する。

4.1 データ概要

データの出所、カバレッジ、観測単位（患者レベル／医療機関レベルなど）、観測期間などを記述する。

4.2 主要変数

従属変数、主要説明変数、統制変数などの定義と構築方法を詳述する。

4.3 記述統計・分布

主要変数の記述統計量や分布（ヒストグラム、箱ひげ図など）を提示し、データの特徴を説明する。

第5章

分析方法

本章では、制度改定の効果を識別するための分析枠組みと推定方法を説明する。

5.1 定式化

本研究で用いる回帰式・DID モデル・イベントスタディ仕様などを明示する。

$$y_{it} = \alpha + \beta \text{Post}_t \times \text{Treat}_i + \gamma_i + \delta_t + X'_{it}\theta + \varepsilon_{it}. \quad (5.1)$$

5.2 パラレルトレンドチェックと検証方法

DID の識別仮定（パラレルトレンド）と、その検証方法（プレトレンドの確認、イベントスタディなど）を説明する。

5.3 推定方法

推定に用いる手法（固定効果推定、クラスタ化標準誤差、重み付けなど）と実装上の詳細を書く。

第 6 章

分析結果

本章では、DID およびイベントスタディの推定結果を提示し、その解釈を行う。

6.1 DID

ベースラインの DID 推定結果を提示し、係数の符号・統計的有意性・経済的大きさを議論する。

6.2 イベントスタディ

イベントスタディの結果を図示し、制度改定前後の動学的な効果やプレトレンドの有無を検討する。

6.3 異質性分析

医療機関の属性、患者属性、地域特性などによる効果の異質性を分析する。

第7章

考察

本章では、得られた結果の含意を理論・先行研究・制度目的との関係で考察する。

7.1 結果の解釈

主要な推定結果を整理し、直感的・理論的な解釈を行う。

7.2 外国との比較

海外の類似制度・研究結果との比較を行い、日本の制度的特徴や結果の位置づけを議論する。

7.3 政策的含意

得られた知見が政策にとって持つ含意（制度設計、運用、見直しなど）を整理する。

7.4 限界と今後の課題

データ・手法・識別の限界を率直に述べ、今後の研究課題を示す。

第8章

結論

本章では、本研究の結論を簡潔にまとめる。

8.1 要約

論文全体の流れと主要な分析内容を簡潔にまとめる。

8.2 主な結果

主要な実証結果と、それが示すメッセージを整理して提示する。

付録 A

表・図の補足

本文中では掲載しきれなかった表・図や詳細な定義・分類表などを示す。

付録 B

ロバストネスチェック

推定仕様の変更、サンプル制限、代替変数などによるロバストネスチェックの結果をまとめます。

付録 C

使用データ・コード一覧

使用したデータセットの一覧、前処理・推定に用いたコード（概要またはリポジトリへのリンク）を整理する。

参考文献